

〔解説〕 特集 / 建築環境・設備における環境性能評価
CASBEE(建築物の総合環境性能評価システム)開発の
背景と最近の動向

村上周三

空気調和・衛生工学 78 11(平 16 11) pp.983~989

建築物のライフサイクル全般にわたる環境マネジメントに対する関心の高まりを受けて、国土交通省の支援のもとに、産官学の連携組織により建築物総合環境性能評価システム CASBEE が開発された。このシステムでは、環境負荷を L (Load) と、建築物の環境品質・性能を Q (Quality) と表現し、両者を明確に区別して評価を行っている。さらに CASBEE では、建築物のライフサイクルを重視し、建築物の環境性能効率 (BEE) などの新たな概念をもとにして環境評価を実施している。

〔解説〕 特集 / 建築環境・設備における環境性能評価
室内環境評価

坊垣和明

空気調和・衛生工学 78 11(平 16 11) pp.1005~1010

“建築物の総合環境性能評価システム; CASBEE”における評価要素のうち、室内環境性能の評価手法について、その概要を示した。すでに完成している“CASBEE-新築”と“CASBEE 既存”を中心に、室内環境評価の特徴、評価の考え方や新築と既存で採用した評価項目、また、“CASBEE 既存”における建物用途別・区分別の評価方法、などを紹介した。

〔解説〕 特集 / 建築環境・設備における環境性能評価
住宅・建築物における環境施策について

坂本 努

空気調和・衛生工学 78 11(平 16 11) pp.991~995

国土交通省においては、本年 3 月に社会資本整備審議会に環境部会を設置し、社会資本整備分野の地球温暖化対策の進捗状況を評価し、本年 6 月に中間とりまとめを作成、公表した。また、地球温暖化対策を含む環境対策全般について総点検し、今後の国土交通省の新規環境対策をとりまとめた“国土交通省環境行動計画”を策定した。このように、環境分野においては京都議定書における目標を達成するために、さまざまな取組みが進められており、本稿において住宅・建築物における環境施策を紹介する。

〔解説〕 特集 / 建築環境・設備における環境性能評価
エネルギー効率の評価

坂本雄三・柳井 崇

空気調和・衛生工学 78 11(平 16 11) pp.1011~1020

本報では、CASBEE における、環境負荷低減性能 LR のうち、運用段階のエネルギー消費の評価方法に関して、その概要を述べる。

CASBEE では、従来から用いられている PAL/CEC などの“建物の熱負荷抑制”や“設備システムの高効率化”の評価に加え、“自然エネルギー利用”や“効率的運用”など新たな視点からの評価項目も視野に入れ、総合的な視点からエネルギー消費の評価ができるように配慮されている。ここでは、新築建築物を対象とした設計段階での評価ツール“CASBEE 新築”と既存建物の運用段階での評価ツール“CASBEE 既存”に関して、解説する。

〔解説〕 特集 / 建築環境・設備における環境性能評価
CASBEE の評価法と評価事例

伊香賀俊治

空気調和・衛生工学 78 11(平 16 11) pp.997~1004

建築物の総合環境性能評価システム CASBEE (Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency) には、建築物のライフサイクルに応じて四つの基本ツールと、さらに幾つかの個別目的に応じた拡張ツールがあることが前章で紹介された。ここでは、その中心となる CASBEE 新築ツールを例に、CASBEE の評価法の概要と評価事例を紹介する。

〔解説〕 特集 / 建築環境・設備における環境性能評価
東京都の建築物環境配慮制度

佐藤信孝

空気調和・衛生工学 78 11(平 16 11) pp.1021~1027

世界的な環境配慮への潮流のなかで、国内各地方自治体は、建築物の新築時に“環境への配慮の度合い”を評価する制度の導入を開始した。そのさきがけとなった東京都の“建築物環境配慮制度”は、事業活動における環境負荷低減を誘導する制度である。規制基準を設定し、それらを順守してもらうといった従来の手法ではなく、事業者計画書の提出を求め、公表により各事業者の自主的な環境への取組みを誘導する制度である。本稿ではその制度の概要と特徴を解説する。